

評価報告書2012の作成時における委員からの意見

「かながわランドデザイン 評価報告書2012」を作成する過程で委員から出された意見のうち、「新たな政策課題として対応を検討する」と整理した意見

会議名等	委員名	意見	評価報告書作成時の整理	新たな政策課題の中での対応
平成25年5月29日 第65回計画推進評価部会	齋藤(文)委員 三井委員	自然環境の保全は、耕作放棄地対策などの農地保全の取組みと切り分けられない側面があるので、農林水産業の活用についても記載した方がよいのではないかと。	農林水産業については、プロジェクト26において取り組んでおり、その中に緑の提供や県土・環境の保全への寄与といった視点も含まれています。 <u>自然環境保全の取組みの中で農地をどう取り扱うかについては、新たな政策課題の整理を行う中で議論を深めていきます。</u>	近年の社会の動きとして、「農業の競争力強化への動きと企業参入」を挙げています。 <u>こうした社会動向も踏まえながら、農地の持つ自然環境保全機能も視野に農林水産業がどのように関わるか、県として今後留意すべき点について議論していきます。</u>
平成25年5月1日 グループ会議	竹中委員	TPPや各国とのFTAが進展する中で、県として取り組むべき戦略や対策を、今後早急に検討する必要がある。	<u>新たな政策課題の整理を行う中で対応を検討します。</u>	近年の社会の動きとして、「環太平洋パートナーシップ(TPP)への参加」を挙げています。 <u>こうした社会動向も踏まえながら、国際化が進展する中、県として留意すべき点について議論していきます。</u>
	三井委員 村木委員 齋藤(文)委員	まちづくりと交通ネットワークの充実は、必ずしもマッチしない。交通だけに着目せず、数値目標も含めて発想の転換が必要ではないかと。	<u>新たな政策課題の整理を行う中で対応を検討します。</u>	近年の社会の動きとして「インフラの老朽化」を、また基本的な視点として「高齢者標準社会への転換」を挙げています。 <u>こうした社会動向や視点も踏まえながら、これからのまちづくりや交通ネットワークの形成にあたり県として今後留意すべき点について、議論していきます。</u>